

生きる希望

(ローマ人への手紙5章)

大阪インターナショナルチャーチ(O. I. C.)に来て、COVIDの規制が解除された後、日曜日に互いに集い、イエスに従おうとする皆さんの誠実な姿を見ることができて、とても嬉しく思っています。17年前に私たちが日本訪問の際に訪れて以来、17年ぶりのOIC訪問となります。今日の私のメッセージ「生きる希望」が、この世界でイエスのために生きるあなたの「希望」を励ますものとなることを祈ります。

聖書では、使徒パウロのローマ人への手紙が、キリスト教の神学の原点となっています。神学というと、学者だけのもののように聞こえる人もいますが、ギリシャ語の“theology”は「神を知ること」を意味します。頭では「知識」として、心では「個人的な関係において、実験的にのみ神を知る」こと程、つまらなく、報われないことはありません。そうでなく、主イエスが言われたように、「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」(ヨハネ17:3)

私のテキストはローマ人への手紙5章1~11節です(*パワーポイントに示します)。ここでは、使徒パウロがキリスト教徒は希望をもつことができる理由を詳しく説明しています。一緒に読んでみましょう。ウェブスターの辞書では、二つの希望が定義されています。第一は、期待を込めた強い願望、あこがれ。もう一つは、これと似ていますが、待ち望んでいることが実現するという信念や信頼が含まれています。第二の希望が聖書的な希望です。希望は信仰と姉妹関係にあります。定義上、感情面でより多くのことを意味します。「信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」(ヘブル11:1 新改訳) 私たちは皆、人は希望なしでは生きられないことを知っています!

ローマ人への手紙5章1節。こうして、私たちは信仰によって義とされた(義認)ので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。生まれ変わったクリスチャンは、約2000年前に十字架の死によって自分のために罪の負債を支払ってくださったキリストを信じることによって義とされたのです。「こうして」は何を意味しているのでしょうか? パウロの言葉である、ローマ人への手紙4章24節-25節、私たちの主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義とするためによみがえった方なのです。どんなに罪深い人でも、自分が受けるべき罰のためにイエスが身代わりになってくださったことを受け入れるとき、神は信仰によってその人を義とされます。こうして、その罪人は義とされるのです。義とされるとは、法律用語で、いわば神の法廷におけるクリスチャンの新しい地

位のことです。神はその罪人を「無罪」と宣言されたので、もはや「罪人」ではなく、聖なる者、つまり「聖人」なのです。

生まれ変わったクリスチャン、たとえば説教者が、教会などの公の場で「私は罪人である！」と宣言することは、神の聖書を誤解させ、イエスが犠牲によって私たちクリスチャンのために買ってくださった高い地位に水を差していることになります。これは、罪人への愛のために、彼らを歓迎しようとするものですが、聖書は「罪人」を神の敵として定義しています。

「罪人」とは罪の中に住んでいる人たちです。クリスチャンは決して「罪と共に」生きてはいけませんが、罪人に対する愛は感じるすることができますし、感じなければなりません。私たちが持っているもの、すなわち義認は、彼らにはまだありません。そして、もし私たちが義認について宣言しないのなら、彼らがそれを望むはずがないでしょう。それはどんなに素晴らしいことでしょうか？ 私たちは赦された「罪人」として喜び、自分にあるもの、この永遠の**希望**に対する喜びを宣言します。私たちはキリストのうちに住んでおり、私たちの家なのです。ここでも、天国でも、永遠に。そうです、私たちが手にするもの、そして自分自身が神からのギフト、「聖さ」であること、神が私たちを無罪と宣言したからであることをはっきりとさせなければなりません。これは宇宙で最も素晴らしい贈り物です。聖霊による**希望**に満ちたイエスとの関係です。赦された「罪人」である私たちは、自分たちのことを決して「罪人」と呼ばず、「クリスチャン」と呼ばなければなりません。

また、クリスチャンは、**内在する聖霊に示された後**、どんな罪も軽んじてはいけません。神様の忍耐は私たちの救いです。しかし、このメッセージで再三申し上げているように、天の配偶者であるイエスとの熱烈な愛の関係を脅かすことになるのに、なぜ故意に罪を犯し続けるのでしょうか？ イエスは、私たちの罪の許しを父なる神とともに買うため、体に釘跡を付けられた方なのです。

次にパウロは、この神による義認の行為が、クリスチャンの生活の中でどのように現れるべきかを説明します。第一は、**神との平和**です。以前は聖なる審判官の前に有罪とされた「罪人」でしたが、今はその審判から解放されたのです。しかし、さらにこの平和は、クリスチャンの心の奥底で体験されるようになります。この平和は、クリスチャンが神と和解したことを体験する感覚でもあります。

今、私たちはイエスに従う中で、聖書の希望があると分かっているにもかかわらず、**神との平和という素晴らしい気持ち**を常に持っているわけではないことを学びます。今日、あるクリスチャンは、「私の神との平和はどこに行ってしまったのだろうか？」と自問しているかもしれません。

キリストの平安を感じられないことで、キリストにある**希望**への確信が揺らぐのです。聖徒の皆さんには、4つの答えを用意しました。

御父のタイミング - おそらく自分でも気づかないうちに、抱え込んでいた罪があるかもしれません。神は、私たちがイエスへの信仰によって生まれ変わってから、何年も待って、私たちがキリストを受け入れたときに気づかなかった、ある

悩ましい罪や習慣を悟らせてくださることがよくあります。その時、私たちは自分が罪人であり、救い主を切に求めていることを告白しました。主は、私たちが一度にどれだけの厳しい愛を受けることができるか、まるで愛する人間の父親のように知っておられます。そのことを、主はご自分の時に明らかにしてくださるでしょう。

内なる戦い - あなたの相反する性質でもあるかもしれません。その通りです。聖書によると、すべてのクリスチャンは、まだ心の中に神に逆らう部分を持っています。肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているので…(ガラテヤ 5:17) 私たちにはまだ古い性質があり、それはイエスと共に十字架に釘付けされたとはいえ、時には私たちの欲望の中にまだ生きていて、私たちの中の聖霊に逆らって作用していることがあるのです。これは意図的な罪ではないけれど、そうなってしまう可能性があるのです。だから、成長するために、私たちは聖霊に勝利を求めなければなりません。そう、私たちの中にまだ残っている古い性質や低俗な性質に打ち勝つのです。これは、私たちの霊的に卑しい性質で、KJV、NAS、AATなど多くの聖書翻訳では、肉と訳されています。私たちの肉体的な欲望が、天の体を受け取る前の仮の住まいである私たちの体に関係していることは事実です。しかし、肉体が悪であると嘘をつくグノーシス主義の宗教を受け入れてはいけません。神は、天の愛に満ちた父からの贈り物として、私たちに人生の感覚的な喜びを与えてくださいます。問題は、私たちの心が、イエスに打ち明けず、イエスの御言葉に従順であることなく、自分の低俗な性質を喜ばせるために、欲しいものを、欲しい時に手に入れるよう、神に伝え、神の選択を支配していることなのです。

外なる戦争 - 神との平和は、悪魔との戦いを意味します。つまり、神の敵であった私たちが、御子の死によって神の友となった瞬間 (ローマ 5:10)、私たちは神の軍隊に加わることになったのです。ですから、私たちは霊的な世界で以前の主であったサタンを敵に回したのです。

ボストンの教会に足を踏み入れた時、初めて悪魔に取り憑かれた男に出会ったことを思い出します。私は彼を教会に招待し、愛そうとしました。私は、悪魔的な占星術からキリストの聖徒に改宗して数週間しか経っていない、キリストにおける赤ん坊だったので。しかし、聖書の (1 コリント 13:8) にあるように、愛は決して絶えることがなく、この場合、私はその頃、読んだ箇所 (使徒 19:14-15) で、クリスチャンではないユダヤ人の人々、スケワの7人の息子についてでした。悪魔に取り憑かれた男が、悪魔が、次のように言った後に、戦いの中でスケワの息子たちにひどい仕打ちをしたのです。すなわち、悪魔はこういいました、私はイエスを知っているし、パウロのことも知っているが、お前たちは何者だ？ボストンでは、悪魔に取りつかれた男に話しかけた後、悪魔がその男を私から遠ざけ、通りを下っていく情けない光景を目にしました。そして悪魔はこういいました。“お前を知っている！”これは人間の声ではありません。赤ん坊のクリスチャンであった私でさえ、このことをはっきりと聞き分けることができました。そしてイエスの霊は、この聖書の一節「スケワの息子たち」のことを私に思い出させ、私はその男のために祈ったのです。しかし、私はいつも、その時、悪魔を追い出す信仰がなかったことを残念に思うと同時に、自分が悪魔の支配から解放されたことをとても感謝しているのです。神様は、私が本当に闇から光へ、サタンからイエス

へと渡ったのだと、新しく見つけた信仰を励ましてくださっているのです。クリスチャンよ、神があなたの名前を知っていること、そして悪魔もそれを知っていることを励みにしてください。そう、悪魔はすべてのクリスチャンの名前を知っているのです。C. H. スポルジョンは、「反対勢力なしに神に仕えようと期待するのは愚かなことだ」と言いました。あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。(第一ヨハネ 4:4)。

4. 「これは試練です」 - ミズーリ州に住んでいたとき、市民防衛局がラジオとテレビの両方を同時に、非常に迷惑なブーンという脈打つ音で頻繁に中断していたことを思い出します。1分ほど経つと、こう聞こえてくるのです。“これは市民防衛のテストです” なんとという安堵感だろう。春になると、多くの雷雨が竜巻を発生させ、その理由が明らかになりました。神は時々、私たちを試すために、神の存在に対する温かい気持ちを取り去ることにしているのです。私たちは希望を持ち続けるか、イエスにしがみつくか。神は、勿論、聖書(1コリント6:20)に在るように、神の子供たちを試みる権利があります。そこには、「あなたがたもはや自分自身のものではありません」と書かれています。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです... 御子の血の犠牲のことです。これには何の罰もありません。罪があるから神が始めたものではありません。讚美歌「How Firm A Foundation」の作詞者ジョージ・キースは、人生においていくつかの試練を経験したに違いありません。彼は、私たちの試練のために、輝かしく美しい言葉を神に帰したのです。

*“When through fiery trials thy pathway shall lie
My grace all sufficient shall be thy supply
The flames shall not hurt thee, I only design,
thy dross to consume, and thy gold to refine
灼熱の試練を乗り越えたとき、あなたの行く手に
わが恵みは十分に汝に注がれる
炎は汝を傷つけず、私はただ計画を立てるだけだ。
汝の汚れを焼き尽くし、汝の金を精錬するために。*

ある年の春、竜巻に屋根の一部を奪われ、押し入れに避難していたとき、試練によって備えられていたことに感謝しました。神は私たちをととても愛してくださっています。私たちが御子のように完成され、天国にいる姿を、神は見据えておられるのです。私たちが本当に希望を学び、御子の姿に変わる道を歩み続けるために、もっと簡単な方法があれば... そうしてください。

4つのケースすべてにおいて：私たちは、キリストの平安を感じられないとき、キリストにある自分の立場、父なる神の無償の恵みに信頼することを学ぶ必要があるのです。祈りは勝利です！

ローマ人への手紙5:2 このキリストによって私たちは、信仰によって、今立っているこの恵みに導き入れられました。そして、神の栄光にあずかる望みを喜んでいます。クリスチャンは恵み(神による無償の恵み)によって救われ、恵みという同じ源と恵みという贈り物によって立ち続け、それによって生きているのです。

このことは、クリスチャンを鼓舞するのです。

私たちは、神の栄光を望み、大いに喜ぶのです。喜びとは、私たちが土の体から離れるとき、神の栄光を完全に体験することを約束してくれたイエスを信じて勝利の喜びを味わうことです。すべての人は罪を犯し、神の栄光を受けられないので、すべての人が失ってしまった私たちの明るい未来（ローマ3：23）を、イエスを信じる信仰によって私たちは手に入れることができるのです。O. I. C. のクリスチャンの仲間の皆さん、私たちはこの希望を持って、栄光の天国への入り口へ向かっているのです。

ローマ人への手紙5：3 それだけではなく、苦難さえも喜んでいきます。私たちのまだ見ぬ将来の希望は、私たちの行いではなく、完全に神によって保証されたものですから、私たちが苦難を喜ぶことは、この地上での生活においても同じ真理を告白しているに過ぎないのです。苦難や 苦しみは、私たちが謙遜にし、自分自身に自信を持たせず、ただイエスに確信を持たせるのです。このクリスチャン生活の法則、つまりイエスへの信頼を学ぶことは、私たちの内面を変えることにつながるのです。

ローマ人への手紙5：3～4 苦難が忍耐を生み出し、 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。キリスト教は、神が時間を超えて存在するように、地上の生命と時間そのものを超えて活動する宗教です。すべてのクリスチャンは、聖霊に励まされながら、その輝かしい永遠のために、その一部を担っているのです。天国への希望と経験との神の知恵あるバランスは、地上での苦難や 苦悩を含んでいます。クリスチャンは毎日、苦難の中にあっても、また楽しい時にあっても、イエスに近づき、永遠に共にいるという約束と希望のために、平安を持っています。このように、キリスト教は終末論 (End Times) に深くかかわっています。私たちは、この地球が神によって滅ぼされることにひるむ必要はありません：万象は激しい熱で滅ぼされ、地とその働きは焼き尽くされます (2ペテロ3：10)。私たちは、息があろうとなかろうと、また足元に地球があろうとなかろうと、神は私たちのための知恵ある計画の中で、苦難のある人生を、この**確信ある態度**に導いてくださるのです。

私はC. K. バレットのこの言葉が好きです。「・・・練られた品性は、単に道徳的な価値だけではありません。試練と承認がここでは明らかに意図されています (ローマ5：4)。そして裁くのは神であり、苦難に忍耐強く耐える人の試みられた人格を保証するのです.... このように神の承認が与えられると、希望を持つことができるのです。.... その人は自分を見るのではなく、神を見る事を学んだからです。(CKB)」

ここにいるクリスチャンの中で、困難な苦悩や艱難を経験している人たちのために、聖霊がイエスの平安を覆い尽くしてくださるように祈りました。このことを伝えるのは簡単ですが、それを実践するのはあなたですが、がんばってください。

ローマ5：5a この希望は、失望に終わることがありません。私たちの希望、まだ見ぬ確信、神の栄光を見るという希望は、私たちに失望させるものではありません。私たちは偽りの希

望に従うことによって恥をかくことはないのです。私たちはどうやってこのことを確信できるのでしょうか？

ローマ 5:5b *なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。イエスを信じる真のクリスチャンは皆、自分の中に聖霊の印を持っているのです。これは、経験的キリスト教の重要な部分であり、どれほど素晴らしい気持ちであったかではなく、何か新しいことが起こった、いわば、神が私のうちに新しい働きを始められたのだ！ということが分かったのです。* このように、パウロは試練に耐えることと、三位一体の第三の位格である聖霊を結びつけているのです。すべての信者は、自分の内側に聖霊を持っています。聖書では、これを「聖霊の証印」と呼び、天国のための頭金や保証としています。このメッセージの後半で、私は、聖霊はイエスの花嫁であるすべての信者に対するイエスの結婚指輪であるという例えを用いています。私たちクリスチャンは、神が私たちを導いてくださるために、助け主である聖霊が必要であることを苦難の中で学ぶのですから、これは極めて重要なことなのです。聖霊の静かで小さな声や、イエスの臨在の特別な感覚など、自分の中にキリストがおられることを知ることで、自分自身ではなく、御霊による神ご自身であることを知り、私たちは進み続けることができるのです。

ローマ人への手紙 5:6 *実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。イエスが十字架にかかられたとき、私たち一人一人のためにしてくださったのです。時間を超えて存在する神は、私たち一人一人が神でない無力な状態にあり、自分ではどうすることもできないことを見ておられました。*

ローマ人への手紙 5:7 *正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良なひとのためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。消防士、警察官、救急隊員などの「救急隊員」は、自分の命を危険にさらし、何度も命を捧げることがあります。しかし、彼らは、自分たちが助けている人たちが、どれだけ「良い人」か「悪い人」かを知りません。「救急隊員」は、社会を守るために「大義名分」を掲げている。しかし、神は、それぞれの人間の邪悪な心を知っておられる、我々は皆「悪」であった、それなのに.....。*

ローマ人への手紙 5:8 *しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。このことは、神が最も愛せない者、つまり私たち全員を愛そうと意識しておられることを力強く示しています。この聖書の一節は、クリスチャンが「私は罪人です。」と言うことがいかに無理なことであるかを示しています。あなたは「罪人」であると同時に「クリスチャン」であることはできないのです。聖書には、キングジェームス訳では「yet」(まだ～していない)、新米国標準訳では「still」(まだ～している)と書かれています。どちらの言葉も、罪人としての過去の状態を意味します。全世界のすべての人は、この二つのグループのいずれかに分類されます。クリスチャンは、この定義によれば、「以前は罪人であった」のです。赦されていない人だけがまだ「罪人」です...しかし、キリストが私たちのために死んだとき、私たちが置かれていたのはそのような状態でした。神の愛の現れは、2000年前の歴史的な出来事によるものであり、その愛は今日、聖霊によって施されているのです。*

ローマ人への手紙5:9 ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。神の義認の行いは、(ローマ 5:1) - **すでに、私たちは平安を得ました - まだ、私たちは罪に対する神の最後の裁きから救われるのではありません - という結論を生むのです。私の言葉を聞き、私を遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを得、裁きを受けることはありません** (ヨハネ5:24)。イエスは罪のための犠牲の前に、罪人たちにそう言われました。しかし、イエスが神のメシアであることを信じることによって、彼らの心は、イエスの復活の後に聖霊によって新たに生まれ変わることを完全に受け入れるようになったのです。今、パウロは、地上でイエスを見たことがないけれども、信じている人々のために、この約束を確固としたものにしていきます。

ローマ人への手紙5:10 **敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいたのなら、和解させていただいた私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです。私たちクリスチャンにとって、“和解”は“義認”と同じ意味であることを認識することが重要です。このように例えると、より明確に強調することができます。義とされた-私たちは正しい裁判官の前で有罪の犯罪者でした。和解-私たちは王である神に対して反逆者として行動していたのです。このように、クリスチャンは神の律法を破って後、義とされ、神の支配に反抗して後、和解したのです。そして、神が歴史に終止符を打つとき、彼らは最終的に救われるのです。つまり、私たちクリスチャンは、神の家族に生まれ変わることに、時の終わりに神の家族全員と一緒に集められるという、人生の橋の2つの堅固な支えの間に立っているのです。では、この橋を渡るとき、私たちはどのように生きればよいのでしょうか。私たちは希望を持って生き、その代価を払ってくださったイエス様との関係をおろそかにしないことです。**

ある人が、「多くのクリスチャンは、ジャングルの中のロープの橋のように、途中でたるんで、この人生の橋を渡っている」と言ったのを聞いたことがあります。私たちはそんな教会を望んでいないのです。そうでしょうか？

私たちがどのように生きるべきかを示すために、私は教会をキリストの花嫁と表現するのが好きです。教会とは、すべての真の信者の集合体です。この例えは、私たちが個人としてどのように生きるべきかを知るのに役立ちます。イエスはクリスチャン一人一人の配偶者です。聖霊の証印は、私たちに対するイエスの愛と献身を示す結婚指輪のようなものです。私たちは、聖霊によって、主と、主の花嫁のための地上の継続的な働きに対して、愛と献身をもって応答します。私たちの主への愛は時として弱いものですが、主の花嫁への愛は決して揺らぐことはありません。私たちには、罪を犯さず、他の恋人を持たないようにする力と知恵を与えてくださる聖霊がいます。他の宗教に参加したり信じたりすることは、あなたの忠実な夫であるイエスに対して姦淫すること、つまり売春婦になることです。聖書はこの例えを次のように教えています (エペソ5:31-32、創世記2:24 AAT)。このため、人はその父と母を離れ、妻と共に住み、二人は一つの肉体となるのです。ここには大きな真理が隠されています。つまり、キリストとその教会に関する真理です。結婚は聖なるものであり、キリストとその花嫁である教会との結びつきを最もよく例えたものであると述べられています。で

すから、キリスト教に反する宗教、哲学、例えば、仏教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教、民族宗教に参加したり、従ったりすることは、明らかにあなたの配偶者であるイエスに対して姦淫を犯していることになるのです。十字架上のイエスの愛と継続的なケアに対する私たちの応答が、人間の結婚と同じように、私たちとキリストの関係を時間をかけてより親密にしていくものなのです。私たちは完璧な仕事をすることはできないかもしれませんが、その関係をおろそかにしない恵みをもっています。

神が与えてくださった聖霊は、日々新たに与えられ、私たちの心の中にキリスト者として生きる**希望**を蘇らせるために働いてくださいます。また、旧約聖書のイスラエルの主なる神を信じる者たちに神がされたように、私たちの行く手を導いてくださいます。ダビデは、しばしば預言的に書いているように、永遠を強く意識していました。ダビデの詩の中に、「あなたは私を諭して導き、後には栄光のうちに受け入れてくださいます」（詩編 73：24）とあります。ダビデは、使徒パウロが私たちクリスチャンのために詳細に記したこの希望を把握していました（ローマ 5:9-10）。**神の怒りから救われ.....救われるのは…御子の死によって、そして御子のいのちによって救われる、**イエスは今日も生きておられ、墓から復活され、私たちのために永遠におられるのです。ですから、私たちは神の怒りから解放された未来への**希望**を持っており、イエス様が私たちを天国の栄光のもとに帰してくださるので、続けていくのです。

教会よ、私たちには死そのものが殺せないという希望があるのです。あなたはそれを信じられますか？

もしかしたら、あなたはまだこの希望を受け取っていないかもしれません。なぜなら、あなたはまだイエスを迎えていないからです。

この古い讚美歌の一部を皆さんにお聞かせしてもよろしいでしょうか。

イエスはカルバリに行かれた
罪人への愛を示された
そこでなされたことは
絶望から希望をもたらされた
主はあなたを愛しておられる
どのように私を愛してくださるのか
あなたと私を愛しておられる

あなたは自分の人生に対する答えを世界中に探し求めることができます。世界はあなたに多くの約束をしています。ビジネスで成功すること、努力すれば何でも成功すること、など。

しかし、神だけが、イエスを通して、絶望の中にあっても希望を見出す力を持っています。もしあなたがまだイエスのもとに来ていないのなら、今すぐ彼を迎え入れましょう！イエスは、あなたが**希望**に満ちた人生を送るために必要なすべての力を持っています。

祈りましょう。親愛なるイエス様、今日ここに集ったあなたを愛する人々のうちに聖霊によって希望を起こさせることにより、父なる神にさらに栄光を与えてください。そして世の光であるあなたを受け入れるため心を開いてください。あなたが愛し、死んでくださったのにこの闇の世界でまだ迷っている人たちのために、あなたの素晴らしい御名、イエスの御名において、私は祈ります。

All Scripture is NAS- New American Standard *unless noted otherwise*: CKB - C.K. Barrett , A Commentary on the Epistle to the Romans, M&M - Greek/English New Testament, Mounce & Mounce, AAT- An American Translation/ Beck, NIV - New International Version